

GAKUIN CAMPUS LETTER

学院キャンパスだより 14

Contents

八戸大学
第1回介護従事者のための公開講座開催
女子バスケット部 初優勝

八戸短期大学
看護学科開設記念講演会開催
八戸小唄流し踊りに参加

光星学院高校
チアリーディング部 東北地区予選大会3連覇
吹奏楽コンクール青森県大会 金賞

野辺地西高校
空手道部女子 県高校総体8連覇



完成！ 八戸せんべい汁体操

八戸市から委託を受け大学・短大のスポーツ運動系・システム系の先生方と総研スタッフが共同で制作したご当地健康体操「八戸せんべい汁体操」が完成した。

制作期間約6ヶ月を経て完成したこの体操は、6月8日、八戸市庁で行われた普及指導者養成説明会で披露、その模様がテレビや新聞メディアに多く取り上げられた。ご当地健康体操「八戸せんべい汁体操」は、生活習慣予防や寝たきり防止に対応するための運動。八戸市民に身近な「好きだ Dear！せんべい汁」に合わせ気軽に踊ることで、ストレッチ体操のような動作、筋力トレーニング動作、足踏み動作などができ、子どもから高齢者まで一緒に楽しめる体操となっている。振り付け指導に小西池郁子さん、関係各

所に配布されたDVD、VHFなどに印刷されたキャラクター制作は八戸短大幼児保育学科卒の木村真唯さん、沢目祐太郎さんが携わった。



7月16日(金)午後5時30分の号砲とともに八戸短期大学1年生178名が、八戸小唄流し踊りに昨年度に引き続き参加し、若さあふれる彩りを添えた。

本番の前に幼児保育学科、ライフデザイン学科に加え、今年新設した看護学科の学生も体育の時間を利用して本番へ向けた練習を体育館で行ってきた。今回流し踊りの講師には、体育の専任講師を中心に踊りの基本から手ほどきした。最後のまとめとして、昨年度も指導していた

八戸小唄流し踊りに参加

いた泉流日本舞踊師範の泉紫峰氏と泉彩菜氏らから、踊りの指導をしていただいた。練習に取り組んだ学生たちは「背筋を伸ばし、目線を遠くに」「指先に気を配って美しく踊りましょう」など、カモメや波の動きを表現する優雅な振り付けを熱心に学んでいた。緊張しながらも、いかに美しく踊るかの細かいアドバイスをを受け、のみ込みの早い学生たちは踊るたびに上達していった。

当日は天候にも恵まれ、16団体約一千人の踊り手たちが号砲を合図に十三日町の三春屋前をスタートし、七夕飾りの下をゆっくり進んだ。哀調を帯びた八戸小唄の調べに合わせ、市連合婦人会を先頭に日本舞踊の団体が次々と登場。普段着



から着慣れない浴衣へ身を包み、最後尾に陣取った学生たちは、色鮮やかな浴衣姿で中心街を彩っていた。緊張しながらも学生たちは、沿道で見守っていた市民の方からも拍手が出るほど、八戸短期大学生が踊りの技術よりも若さあふれる華やかさを披露した。

内定を勝ち取れ！

合同企業研究会開催

6月27日(土)に昨年度に引き続き6月にも合同企業研究会を、大学4年生、短大2年生を対象に八戸プラザホテル「桜の間」で27社の県内・外企業の参画を頂き開催した。

今年度の大きな特長は、学生が授業や実習等を気にしないで参加出来るよう休日に開催したことである。もう1つは、八戸工業大学就職課と連携を図り、お互いの就職セミナーに学生が自由に参加出来るようになったことである。結果、本

格的に就職活動を行っている時期でもあり、今年度の厳しい就職戦線を反映して、大学生、短大生、工大生を含め110名の学生が会場に足を運んでくれた。参加した学生は真剣そのもので、関心のあるブースを積極的に訪ね、真剣な眼差しで担当者の説明に耳を傾けていた。「受験する会社が見つかった」、「興味持った会社の説明をもっと聞きたい」など前向きな感想を終了後に話していた。一方、採用担当者も希望する人材を確保するため、終了時間一杯まで面談を行うなど熱気に溢れた説明会であった。なお、参加企業は現在採用活動を継続しているか、今後予定を



している企業である。

また、今回、保護者にも現状を理解してもらいたく、合同企業研究会に併せて初めて保護者向けの「就職研究会」を同時開催した。保護者からは「家庭で就職について子供と話が出来る」、「就職の流れが理解できた」など参加してよかったと好意的な意見が聞かれた。

「売り手市場」から一転、「買い手市場」へと就職環境が変化する中、就職担当者としては、今後学生が内定を勝ち取ることが出来るよう、あらゆる面からサポートを考えているところである。



教育実習レポート

5月25日～6月12日までの3週間、母校である一関中学校で教育実習を行った。初めはとても緊張し不安でいっぱいだった。しかし、先生方や生徒の皆さんが温かく受け入れてくれたので、安心して実習に取り組むことが出来た。

一番、苦戦したことは授業だった。人前で話しをすることが大の苦手な私が、生徒たちにわかりやすく授業を行うこと

が出来たのかと不安に思っていたが、先生方からのアドバイスや、生徒の皆さんの笑顔に助けられ無事に授業を終えることが出来た。授業の前に生徒にかけられた一言、授業が終わった後に生徒にかけられた一言、それらの言葉が力となり本番の研究授業ではスムーズに授業を進めることが出来たと思っている。たった3週間という短い期間だったが、恵まれた

環境で楽しく実習をすることができ、本当に良かったと思う。この実習で先生の大変さを実感し、教師になりたいという夢はまた大きくなった。私は何年かかっても、絶対に「教師になる」という夢を実現させるため努力をしていきたい。

人間健康学部4年 鈴木 志乃舞

ビジネスの現場

マネックスグループ株式会社 寄付講座「ビジネス特論Ⅰ」

昨年度に引き続きマネックスグループ株式会社のご協力により、寄付講座「ビジネス特論Ⅰ」が開講された。初回である4月16日(木)は特別講義として、同社社長の松本大氏による公開講演が行われ、学生、一般の方を含めて約100名が受講した。今年で2回目となるこの寄付講座は、東証一部上場のマネックスグループの中核会社であるオンライン証券大手のマネックス証券が、次世代のコンタクトセンターを八戸市に開設したことにより実現したものだ。今年度の講座は特別講

演を含めて全15回、マネックスグループ株式会社とマネックス証券株式会社でビジネスを実践するスペシャリストにより実施された。本学の学生のほか科目等履修生として受講する一般の方を含めた受講者は、オンラインの金融サービスに求められる役割や、激変する日本と世界の資本市場の実践的な解説など、ビジネスの現場に即した内容を熱心に受講していた。



学生支援員研修会開催

平成20年度から文部科学省の委嘱により実施されている「学生支援員派遣事業」が、今年度も行われることになり、派遣に先立って5月11日(月)に本学において学生支援員研修会が開催された。この派遣

事業は、同省の「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」の一つとして、青森県教育委員会が委嘱を受け各大学から学生支援員を募集、派遣をして

いるものだ。県南地方では唯一本学から派遣されており、今年度は将来教員を目指している人間健康学部の学生9名が参加。研修会ではこの事業の目的や手続き方法などの説明のほか、発達障害に関する知識や支援の実際について、八戸市教育委員会の担当指導主事の講演などが行われ、熱心に学んでいた。この研修を終えた学生達は、現在



学生支援員として八戸市内の小学校に出向き、障がいを持つ児童とふれ合い、理解しながら学習支援や介助の仕方について、学びながら積極的に取り組んでいる。



「10年で100人の起業家を青森から」をテーマに、第1回起業家養成講座が4月25日に市内オフィスで開催された。主任講師に、八戸大学客員教授でヤフーパ

いる方々16名で、八戸市内、三戸町、五所川原市など在住のサラリーマンや経営者、OLなど。内5名が女性。講義では外部講師から実践的な起業事例を、学内

起業家目指して

リユーインサイト(株)創業者の大谷真樹さんを迎え、丹羽浩正八戸大学ビジネス学部長監修のもと、9月26日まで全8回、毎月1～2回土曜日に開催される。参加者は、起業を目指す方、第二創業を考えて

の内部講師からは基礎理論面を習得する。他にマーケティング、経営環境の分析、ファイナンスなどを習得し、投資家へのプレゼンテーションまでを行う。講義の進行と同時に講師陣が、受講者の具体的な起業に向けてサポートしていく。8月8日・9日には十和田湖でサマーキャンプを行い、受講者は外部講師陣の起業事例に耳を傾け、また講師陣と交流を深め合った。起業家養成講座は秋から第二回が開催予定。



地域住民に生涯学習の一環として大学レベルの知識と学習機会を提供することを目的とした'09そうけん土曜講座の全12講座が修了した。市内オフィスを会場

に6月6日から始まったこの講座は、毎週土曜日の6日間にわたり開催され、7月18日に講師陣・聴講者・関係者の出席で修了式と交流会を執り行い閉講した。聴講者は高校生から80代まで幅広い95名の方々と、昨年に続いての講座開催とあり、2年続けての参加という方も多くみられた。八戸大学・八戸短期大学の教員9名、外部講師3名による講義は「地域」「時事」「コミュニケーション」「健康」など多岐にわたった。25名の定員を超える講座も多くあり、講師の話に熱心に興味深く耳を傾けている聴講

者の姿が見られた。講座は、あおもり県民カレッジ単位認定とあり、県民カレッジ手帳を持参の聴講者も見られた。



F D学内研修会に教職員が参加

6月19日(金)に、F D学内研修会が開催された。この研修会では、山形大学人文学部教授、同大学高等教育研究企画センター、F D・授業支援クリニック部門長

の元木幸一先生に「学生の意欲とF D」のテーマで約1時間講演をしていただき、その後約30分間質疑応答が行われた。講演では、山形大学及びF Dネットワーク「つばさ」でのF D活動の取り組み、及び学生の意欲喚起に向けての方策等の話をいただいた。

山形大学におけるF D活動の取り組みにおいては、公開授業と公開検討会、ベストティーチャー賞の選定、F D合宿セミナー、授業アンケートなどの取り組み等が紹介された。また、学生の意欲喚起のためには、板書の



積極的活用、授業ノートの提出、多様な能力の学生からなるクラスでのディスカッションなどが有効ではないかとの指摘がなされた。このF D研修会には、大学・短大の教職員約60名が参加し、「公開授業への抵抗がなくなった」などの意見も出され、大変好評であった。



父母の会役員会・総会

後援会理事会

開

催

同窓会役員会・評議員会

平成21年度第1回八戸大学父母の会役員会・総会が、6月27日八戸プラザホテルで開催された。昨年度・今年度の事業報告等を行い、各議案について全て承認された。また総会では家口和夫父母の会会長より、「父母の会が大学行事に参加することは子どもにかかわることにつながっていく。そのためにも父母の方々の積極的なご参加とご協力をお願いした

い。」と挨拶がなされた。総会後、教務・学生の各担当職員による保護者に対する個別相談も行われた。

同日、平成21年度八戸大学後援会理事会と八戸大学同窓会役員会・評議員会が八戸第1ワシントンホテルで開催され、昨年度の事業報告と今年度の事業計画が示され、各議案について全て承認された。また、鈴木宏一八戸大学学長より「大学

が来年30周年を迎えることから、在学生の参加だけではなく、全国各地から多くの卒業生が参加出来るような記念行事を考えていきたい」との発言がなされ、後援会・同窓会として検討を始めていくこととなった。それを踏まえて山田政信後援会会長をはじめ出席者の方々と活発な意見交換が行われた。



東北地区大学図書館協議会合同研修会



近年大学図書館では、職員の削減や業務のアウトソーシング等により、各館でのノウハウの継承が難しい状況となってきたことに鑑み、加盟各館が互いの知恵と経験を交換し合い、今後の業務の充実・発展につなげることを目的に、八戸大学・八戸短期大学図書館が開催担当館となり、東北地区大学図書館協議会の平成20年度合同研修会が6月26日(金)に美保野キャンパスで開催された。

研修に先立ち、11時30分からチャペルにおいて開会式が開催された。看護学科の山野内靖子先生の司会により、本図書館の前山総一郎館長の開会の挨拶、大学の鈴木宏一学長の歓迎のことばが述べられた。続いて参加者の親睦を図ろうと、大学会館で昼食会が催され、郷土料理のせんべい汁が振舞われ、参加者には好評のようで喜ばれていた。

13時からは、総合実習館の多目的会議室を会場に、副館長佐藤愛子先生の司会により、本館司書の小松事務室長を講師として、「図書館員のスキルアップを図るためにー司書の専門性から図書館員のSDとFDを考えるー」と題した基調講演が行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。

講演終了後休憩をはさみ、14時15分から各グループに分かれてのテーマ別情報交換会に移った。テーマの内容は、「第1テーマ：図書館の利用者教育について」、「第2テーマ：資料収集(図書選定)および保存・管理について」、「第3テーマ：図書館の広報活動について」、「第4テーマ：大学図書館の新たなサービスの導入・展開について」となっており、参加者はみな非常に熱心で、それぞれのグループで活発な意見交換が行われていた。

各グループでの討議内容については、全体発表会の場で、それぞれのテーマごとにグループの代表者が発表

を行い、予定していた時間をオーバーするほどであった。

全体発表会の後閉会式に移り、本協議会の常任幹事館である東北大学附属図書館医学部分館の高橋信野事務長より、今回の合同研修会は、従来の講演を聴いて終わりという研修ではなく、大学図書館の今日的な問題をテーマとして取り上げた情報交換会を設け、問題意識を持った図書館職員の参加型研修会となり、有意義な内容であったとの講評が述べられた。最後に、開催館の前山館長より閉会の挨拶が述べられ、盛会のうちに終了した。



第1回

介護従事者のための公開講座 in 八戸大学

6月27日(日)八戸大学のキャンパスで「第1回 介護従事者のための公開講座 in 八戸大学」を開催しました。今回の企画は市内の介護現場で働いている数名の介護職員の方々と某月13日金曜日の深夜、某所に集まって他愛もない話をしていた中で、思いつくままに勢いで立ち上げた企画でした。公開講座当日は予想を大きく上回る300名近くの方が参加していただきました。本当にありがとうございました。

私自身の考える大学は、「キャンパスが地域の方々と親近感を持ってもらわなければ、地域で生き残ることはできない」ということです。そこで、大学の敷居をいかに低くするかということを考えた結果、八戸大学のキャンパスで公開講座を行うことにしました。

また、今回の公開講座では、「1日限りの学生気分」を味わっていただこうと午前10時から午後5時30分まで講義をビッシリと組みました。この中で8講座を用意させていただき、参加者が受けた講座を自ら選んで受講するスタイル(最大4講座まで)としました。具体的には以下の8講座です。

①小規模多機能型居宅介護【ひつじ雲】

- ー実践から見てきたものー
- ②認知症ケアで大切にしたい事を考える
～利用者の心地よさを求めて、
ヘルパーの実践から～
- ③利用者本位の訪問介護計画とアセスメント
- ④言葉で介護する“ことばかいご”
～ケアプランに沿った
目標達成のために～
- ⑤業務範囲から考える訪問介護員の本当の仕事
～マニュアル化された
介護の提供にならないために～
- ⑥ヘルパーならではの視点と技術が身に付くゴミ袋での足浴
～心地よさの体験～
- ⑦ひやり・はっと、介護事故防止のためのファーストステップ
～危険予知訓練～
- ⑧これからの特別養護老人ホームの質の視点
ー世界に認められるケアを目指してー
私は八戸大学に赴任して5年目となります。その間、学会や論文で研究成果を報告することはしてきましたが、私の信念である「調査結果は現場に還元」をこの5年間でどこまで実践できたのかとい

うと、まったく出来ていなかったと思います。介護労働者の職場環境の悪化は今に始まったことではないことも10年前から把握していながら私自身、身を削って応援できていたのかと自問自答すると、本当に微々たる貢献でしかなかったように思います。

そこで、介護現場で働く方々に直接的な恩返しをしたいという思いから今回の公開講座を立ち上げました。この私の思いに賛同してくださった7名の講師を招いての講座は、どの講座も好評を得ることができました。また、スタッフとしてご協力いただきました教職員の皆様のおかげで、大きな事故・クレームもなく終えることができました。心から感謝しております。ありがとうございました。

この公開講座のタイトルに「第1回」と付けたのは、継続することによって初めて地域の方々に恩返しができるという思いがあります。次回は11月1日の秋桜祭に開催します。テーマは「認知症」と「口腔ケア」です。そして、第3回は来年の6月27日にNHK論説委員の方などをお招きして開催する予定となっています。

八戸大学人間健康学部 篠崎 良勝

女子バスケットボール部

初出場！

初優勝！



六月に行われた県学生大会で八戸大学女子バスケットボール部は、準決勝一位シードの弘前大学と対戦。序盤からリードしつつも結果が見えない試合展開。後半、弘前大学のプレッシャーが厳しくなり、一時逆転されながらも、なんとかリードを守り抜き勝利。決勝の青森中央学院戦

では、弘前大学戦の疲れも見えたが、前半からリードを許さず、危なげなく勝利し、初出場初優勝を飾った。弘前大学は現在二部の一位であり、二部トーナメントで再度対戦し、勝利しなければ一部昇格の夢には近づけない。現在部員は5人しかないが、夏は東京遠征で経験を積み、残りの練習を二部構成の練習で鍛えていく予定だ。ゲーム形式の練習では、男子を相手に練習するので、課題となるスピードや高さに対応できるようにしたい。女子バスケット部は、一人一人の技術が個性溢れるチームなので、今後はチームワークを高める練習を中心に、二部トーナメントに望みたい。

親睦の輪

毎年恒例の新入生対話合宿が、4月30日・5月1日（一泊二日）、岩手県宮古市グリーンピア田老で実施された。

この合宿は、新入生が相互間の理解を深めるとともに教職員、リーダー学生（学友会）との親睦を図ることを目的として行われている。

今年の対話合宿は、天候にも恵まれ、数多くの企画がリーダー学生が中心となり円滑に進行された。特に、ゼミ単位で行動し、教員とのコミュニケーションが不可欠であるウォークラリーで、新入生の笑顔が絶えなかったところが印象的だった。また、夕食後のクラブ・サークル紹介、ジェスチャーゲームなど全員参加型の企画は、感心する内容で、今年度、

新入生対話合宿

学友会主催で予定されている様々な行事に期待を感じさせた。

その他、宮古市田老支部ゲートボール協会の協力を得てゲートボール大会が開催され、新しいものを受け入れるという「チャレンジ＆トライ」の一端も経験した。

この合宿をとおして得たことをこれからの大学生活に生かして有意義な学生生活を送っていくことを期待する。



「八戸大学」OB&OG訪問 part14



矢倉丈志さん

プロフィール

八戸大学商学部商学科卒（3回生）。現在、釣具メーカーの（株）スカジットデザインズに勤務。サラリーマンの傍ら、自身企画主演のDVD制作やWEBサイト運営、釣り雑誌の記事を書くプロフィッシングライターなどで活躍。

Q：大学時代の思い出を聞かせてください。

A：卒業するまでサーフィン部に在籍し、六ヶ所～三沢～八戸～久慈と各地の海に1年中触れ合えたことです。新しいボードやウエアを買うため、夜はバイトに明け暮れました。

Q：北海道・東北各地を飛び回っているそうですね。

A：現在は担当エリアがさらに増え新潟・北関東地区も営業していますが、営業車で月4,000～5,000km走るとはさほど大変ではありません。かえって各地の美味しい物を食べる楽しみができ、自身のブログネタにもなるためこれが唯一の息抜きといえます。

Q：DVDを製作したそうですが、どのような内容ですか？

A：むつ湾で魚の王者マダイが誰にでも簡単に釣れるというHOW TO物です。日本広しといえども4～11月一杯までマダイが釣れ、その釣り方も青森ならではの。このネタを全国発信することで、釣り王国としての青森県の知名度を上げたいと思い製作しました。

Q：最後に教職員や学生へメッセージをどうぞ。

A：私達企業人が常に求められているものは「プロセス」と「結果」であり、「結果の伴わないプロセス」や「プロセスのない結果」は無意味だと考えています。「需要と供給のバランスを冷静に判断」「（数多くの）点と点を線で繋げるような発想」ができるような社会人予備軍が、少しでも多く我が母校で育っていけば嬉しいですね。

学生総会で新たなスタート



平成21年5月20日(水)八戸短期大学体育館において、平成21年度年度定例学生総会（八戸短期大学学生会執行委員会主催）が行われた。

学生総会では、平成20年度の学生会事業報告のほか、平成21年度の事業計画などが学生会役員より報告され承認された。また、新入生に対するサークル・愛好会の紹介も行われ、各団体に所属している学生たちは活動内容を楽しく、

分かりやすく紹介を行った。学生総会が行われたことで、学生会にとって新たな一年のスタートとなった。



白熱！スポーツ祭



学生会主催のスポーツ祭が6月3日(水)に光星学院総合体育館で盛大に開催された。このスポーツ祭は、ゼミ毎に分かれて対抗するという形式で実施しており、ゼミ生相互ならびに教員との親睦をスポーツで深めてもらうことを目的とし、毎年開催されている。今年の種目は長縄跳び、バレーボール、玉入れ、リレーの4種目。今年度は、4月に新設された看護学科の学生も参加し、昨年度より人数が多いスポーツ祭になった。

開会式では、選手宣誓、諸注意事項を

伝達した後、長縄跳びから開始。長縄跳びはゼミ全員参加で、2分間の時間内で跳べた最高回数を競うルール。最高回数67回を看護グループ7が記録。引き続き行われたのはバレーボール。10分間の時間制で行い、準決勝は15点先取、決勝は25点先取で行われ、幼児保育の渡辺ゼミが1位となった。引き続き行われたのが玉入れ。制限時間30秒で籠に多くの玉を入れるというシンプルな競技。各ゼミから8人選出で行われた。籠には玉が入りにくいように工夫され、学生たちは戸惑っていたが、32個を入れた杉山ゼミが1位となった。最後に行われたのがリレー。各ゼミから6人を選出し、縦に作られたコースを走りタイムを競い合うと

いう競技。幼児保育の丸井ゼミが僅差で1位となった。白熱したスポーツ祭の総合順位は、1位が幼児保育の渡辺ゼミ、2位が看護のグループ7、3位が幼児保育の岩館ゼミという結果となった。



平成21年度就職出陣式

5月18日(月)に「平成21年度就職出陣式」を開催した。この就職出陣式は、就職指導の時間を活用し、ライフデザイン学科2年生が全員参加した。

出陣式では、内海隆学科長の「激励の言葉」の後、中村富美夫就職支援担当係長より「平成22年度採用状況分析」の説明があり、学生達の表情は真剣そのものであった。学生を代表し、狛守亜美さん（八戸東高校出身）が、「地方の就職環境は、以前から大変厳しいものがあるとい

われてきましたが、私たちは、自ら積極的に就職活動を行い、必ず各自が希望する就職先に内定を決められるよう、精一杯努力する」と力強い決意表明があった。最後に磯島直幸君（仙台育英高校I L C出身）による各学生の積極的な就職活動

に向け、気合を高めるための喊声で就職出陣式を終了した。

地方の雇用情勢は厳しく、学生一人ひとりが希望する企業から内定を勝ち取るため、就職出陣式で見た強い気持ちを持ち、就職戦線に臨んで欲しい。



幼児保育学科

実践保育を実施

7月2日(水)八戸短期大学附属幼稚園において、幼児保育学科の2年生が実践保育を行った。この実践保育は、幼児保育学科の教育理念に基づき、講義で学んだものを総合的な「模擬保育」という形で実施し、理論と実践を並行して行うことで、より保育についての理解と認識を深めることを目的とすると共に、「模擬保育」の集大成として行っている。

この「模擬保育」は、保育実習および教育実習の事前指導として行っている独自のプログラムで、実際に子どもに接するように言葉遣いや表情に注意しながら声がけや指導をするものである。その流

れは、模擬保育担当教員と実技系担当教員から全体説明や分野別の指導方針説明を受け、対象クラスおよび指導内容をグループ毎に指導計画案としてまとめる。作成した指導計画案を実技系担当教員による指導およびゼミ担任の指導をもとに、内容を検討し指導計画案の改善を行う。その後、学内において学生が先生役と子ども役に分かれ、ロールプレイング形式で保育活動を行い、指導計画案を再度検討し実践保育へつなげていくこととなる。

実践保育は、改善された模擬保育指導計画案をもとに、模擬保育担当教員が、模擬保育評価と改善指導案からグループ

を選抜し部分保育を行うものである。選拔されなかったグループは観察グループとして参加し、指導案を作成したグループを観察する。五領域の観点について、自己視点と状態観察の視点で



行い、2つの視点から改善点を見出し、実践保育グループに伝えられる。実践保育後、各グループは事後指導として附属幼稚園の実施クラス担任から指導を受けるほか、観察グループからの改善点や模擬保育担当教員と実践保育引率教員からの指導を受け、実践保育改善指導案としてまとめていくこととなる。

後期の模擬保育は1年生が主として行っていくが、2年生は講義や実習などで得た知識や経験をもとに指導を行っていく。2年生は子ども役となり、あらゆる状況を演出し実践に近い環境を作り出すことで、模擬保育をより現実に近い状況として行っていく。



砂浜彫刻で学ぶ

7月15日(水)に幼児保育学科の学生179名が八戸市鮫町にある白浜海岸で、砂浜彫刻に取り組んだ。この砂浜彫刻は、幼児保育学科の学科行事として行っており、今年で8回目の実施。子どもの好きな砂遊びを学生が実際の体験を通して、子どもの気持ちをより深く理解できる場としている。また、学生達が八戸の豊かな自

然から多くの学びがあることを知り、自然の素晴らしさなどを将来子どもたちに伝えられる保育者を目指している。

今年のテーマは「大切なもの」。ゼミごと13グループに分かれ、事前に紙粘土で模型を作りイメージを膨らませた。学生達はスコップで砂を盛り上げたり穴を掘ったり、バケツで運んだ海水で砂を固め約2時間協力して作品を完成させた。砂まみれになった学生達は、完成された作品を取り囲んで記念撮影が行われた。



八戸短期大学

本学の建学の精神は「神を敬し、人を愛する」であり、教育目的は「本学は、カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を受け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成することを目的とする。」としている。

建学の精神 学科の教育目的

学科の教育目的として、幼児保育学科は「知的専門性と感性的専門性を有する実践的な保育専門職員の養成を目指し、同時にカトリシズムに則り、愛と知性に富み、健全にして豊かな情操と調和をもとに、保育の社会的発展に貢献する人材の育成」を、ライフデザイン学科は「自立した個の確立を目指して、人生や生活

をデザインすることに関連する基礎学問の領域から理論的知識を学修し、さらに実践等を通して、進んで社会に貢献するような行動とバランスある思考力を有する人材の育成」を、また、看護学科は「豊かな感性と人間性を備え、日々、進歩する看護の知識や技術に対応できる能力や地域の保健医療活動、健康増進に看護の実践者として貢献できる資質の高い人材の育成」を、それぞれの学科の教育目的としている。

就職活動へ向けて



5月15日(金)八戸大学学生会館において、光星学院高等学校専攻科自動車科2年生の学生を対象に企業説明会を開催した。この説明会の趣旨は、学生の進路に対する意識の高揚を図るものであり毎年この時期に実施している。企業の参加数は県

内外合わせて11社であった。昨年度と同数を確保することができた。

さて、企業側としては卒業と同時に即戦力となる優秀な人材を一人でも多く確保したいのが狙いであるが、今年は不況でありあまり多くの求人ではないのが各企業の共通した部分のようであった。また、学生側としては自分

に見合った企業を探すために、時間の許す限り多くの企業の方の説明を聴こうと終止真剣な雰囲気



ルートスーツ姿で緊張した学生達が各企業の採用担当者の説明を受け、自分が将来就職試験にチャレンジするための情報を得ようとして熱心に耳を傾けていた。

7月現在、説明会参加企業に応募して受験しさっそく内定を得た学生もいる。また、半数以上の企業を廻り情報を収集しようと計画を練っていたが時間が足りなくて十分にできなかったのが残念、といった学生もいた。

この企業説明会は就職活動の第一歩としてとても重要であるので、今後は開催時期を早め就職活動の支援にあたりたい。

第2段階実習を終えて

第2段階実習で得られたものは、施設の利用者が今まで歩んでこられた過程をふまえ、その人らしさを尊重し、ありのままの気持ちや言葉、そして、その方の行動や様子を理解することができた事である。

第1段階の実習では、利用者の気持ちに添うことができずに理解することができなかった。

今回の実習では、利用者を理解するためにその方の気持ちに寄り添って、またコミュニケーションや感情だけではなく、生活背景や動作からも読み取ることでより冷静に考え、援助をさせていただくこ

とができた。

その利用者には他にもまだまだたくさんの思いや感情があったと思いますが、自分の関わり方が未熟なためにすべてを引き出すことができなかったと思います。

今後もう一度自分自身と向き合い、今回のやり残した課題を克服できるように取り組んでいこうと心に決めました。

光星学院高等学校専攻科
介護福祉科2年 市川 恵美



発進!

安全ラリー大会



自動車科の第32回安全ラリー大会が7月17日(金)に行われた。梅雨の時期でもあり天候が心配されたが、当日は好天に恵まれた。今年度は学生13チームに職員1チームの合計14チームが参加して行われた。各チームは3分毎にスタートし、直

前に渡されるコマ地図を見ながら制限速度で進み、約25km先のゴールを目指します。(今年度は南郷区の水辺の楽校)地図の見落としからコースから外れ、迷うチームもあり、規定のタイムからかなり遅れてゴールする場面が多く見られたが、事故もなく全車が無事にゴールすることができた。

昼食は恒例のチームごとのバーベキューを楽しみ、その後の表彰式で各区分賞と順位が発表され、今年度のラリー大会は終了した。



第62回青森県高校総合体育大会

6月5日から県内全域を会場にして行われた第62回青森県高校総合体育大会において、各部とも団体・個人競技において輝ける成果を収めた。

硬式野球部の3年ぶり9回目の優勝、レスリング部の8年連続20回目の優勝は大変見事という他ない。また、ソフトテニス部は惜しくも連覇を逃し準優勝に終わったが、団体第3位に空手道部男子と柔道部女子が入賞する健闘を見せた。個人競技においては、レスリング部をはじめソフトテニス部・空手道部・柔道部女子・陸上競技部、ゴルフ愛好会の活躍が顕著であった。また同時にこれらの部は全国高総体（インターハイ）並びに東北大会出場の切符を手にし、さらなる活躍

が期待されるところである。

なお、全国高総体（インターハイ）は、7月28日から8月20日までの日程で奈良県を中心に2府3県で開催されるが、これに先立ち7月21日の終業式の日に、壮

行式が行われた。全校生徒から出場する各選手に対してエールが送られ、これに対して各部の選手から力強い宣誓があった。各部、健闘を祈る。



集まれ中学生

アクティブスクール開催

7月30日・31日の両日、本校を会場にアクティブスクール（体験学習）を開催した。これは、中学生の皆さんに本校の授業を体験してもらい、本校のことをより深く理解してもらうことと、同時に進路選択の一助となることを目的に開催し

ているものである。

新校舎での開催が2年目となる今年は、昨年よりも参加者数が大幅に増え、引率・保護者の方を含めると800名を越える人数となった。4学科8コースで17の講座が開講されたが、特に保育Iコースの『おやつ』をテーマにした講座は中学生の関心が高く、定員を超える盛況ぶりであった。普通科の『進学』をテーマにした授業も人気が高く、熱気が漂う授業であった。その他各科とも多様な授業展開がなされ、中学生の皆さんにとって

は、本校の特色ある教育実践の一端を体験できたものと思われる。

今回は学習編を中心とした開催であったが、8月29日に部活動編の開催、9月15日にはオープンスクール（学校見学会）の開催を予定している。



優勝！チアリーディング部 ジャパンカップ出場へ



七月十二日、宮城県岩沼市で日本選手権東北地区予選大会が行われた。

優勝すると三連覇。昨年度は優勝はしたものの、全国大会への基準点に到達することができず悔しい思いをした。今年は絶対に全国で演技をしたいという強い気持ちがあった。優勝、全国…選手たちへのプレッシャーは大きなものであった。そのプレッシャーからか、練習中の怪我人が続出。そしてメンバーの半分以上が入部3ヶ月の1年生。練習の段階で全員が不安を抱えていた。思うように動けな

い悔しさ、体中が痛いという辛さ…何度も悔し涙を流していた選手達。

満足な練習ができないまま迎えた本番。あっという間の二分三十秒であった。奇跡的に完璧なノーミスの演技。選手全員で嬉し涙を流した。

結果は目標であった優勝。そしてジャパンカップ出場権を獲得することができた。大学生、社会人に大差をつけ圧倒的な結果であった。最後まで諦めずに仲間を信じ、自分達の演技を貫き通したことがこの結果に繋げることができたと思う。次はいよいよジャパンカップ（国立代々木第一体育館）。目標であった舞台で悔いを残さないよう、日々心身共に成長していきたい。

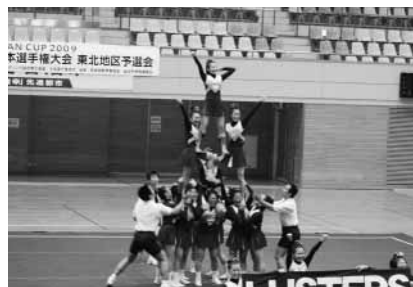


自由演技 優勝

(三年連続 三回目)

ジャパンカップ出場権獲得

(二年ぶり二回目)



アロマでリラックス

第1回母親研修会

平成21年7月10日に本校オープンスペースで「アロマでリフレッシュ からだにやさしい手作りコスメ 発泡バスソルト作り講座」をテーマに第1回母親研修会が開催されました。講師は本校PTA会員でもあります岩本純子さんでした。PTA会員と一般の方々合わせて22名が参加しました。研修が始まるとまず岩本先生によるアロマの説明がありました。「アロマは私たちの心と体にさまざまな働きかけをしており、医療分野でもアロマセラピーが導入されています。すっきり目覚めたい、リラックスしたいなどアロマは効果がありますよ」「アロマを安

全に使用するには体質や体調をよく考慮することが大切です」先生の熱のこもった説明に参加者は耳を傾けつつ、熱心にメモを取っていました。説明が終わると重曹、クエン酸、天然塩、精油などが準備され、いよいよ発泡バスソルト作りに取りかかります。重曹の入っているビニール袋に精油と天然塩を入れよく振り混ぜ、さらにクエン酸を入れてよく振り混ぜます。するとまたたく間に研修会場はアロマの香りが広がりました。仕上げて袋を握って成型し、固めて完成です。あちらこちらから歓声があがりました。その様子に先生からは、「バスソルトや発泡バスソルトに限らず、アロマセラピーを楽しみながら自分に合ったものをたくさん作ってみて下さい。ステキな香りに癒されて日々の生活がきっと豊かに



なると思いますよ」という言葉を頂きました。参加者からは「アロマは以前から興味があり今回の研修を楽しみにしていた」「今までは趣味で生活に取り入れていましたが、アロマは体に良いことが分かり大変勉強になりました」「改めてアロマの効能を知ることが出来たこれから実生活に役立てたい」などの声が多く寄せられていました。





就職者激励会・関東支部同窓会開催

6月26日(金)、東京品川にある中華料理店『高輪』において、平成21年度就職者激励会ならびに関東支部同窓会が合同で開催された。毎年この時期に開催されているが、今春卒業した生徒たちにとっては大都会の生活にも戸惑いながら、仕事にも本格的に取り組み始めるときで、こうした時期の開催は真の激励会となった。また、企業、同窓生に本校関係者を含め32名だったが、女性(同窓生)の参加者

も増え、八戸を離れての集いは、懐かしさもひとしおで賑やかな会であった。法官校長から関係者へのお礼で始まり、谷真二『駒形どぜう』専務様の激励のことは、海野岩美同窓会関東支部長、校長の歓迎のことは、同窓会会長代理でわざわざ八戸から出席していただいた安井副会長の挨拶と続き、笠原秋夫「恒栄電設株」様の乾杯で懇談が始まった。新社会人の一人ひとりから近況報告があり、大都会での生活の一端が垣間見られ、これに対しては、在京の同

窓生諸氏から力強く温かい励ましのことがあった。会は、日影利男前同窓会関東支部長のことばで締められ、来年の再会を誓い合って、新生社会人たちは、企業・同窓生の作るアーチに送られて終了した。ご出席くださいました企業の皆様、同窓生の方々、新卒業生の皆さんに心から感謝申し上げます。



世界で活躍するOB



八戸市はもちろんその近郊に住む者であれば洋菓子店「アルパジョン」を知らない者はおそらくいないであろう。無骨な漁師町にはふさわしくない、メルヘンで洒落た洋菓子店の総帥が松坂和治氏で

ある。1960年八戸に生まれた氏は数々の挫折を経て1976年、本校商業科に入学する。ここから氏のサクセスストーリーが始まる。体育館に集まった約800名の在校生が憧れをもって氏を見つめる。

「人生にとって大切なものは感謝の心を持つこと、努力すること、人との絆を大切にすることである。いま君達が接しているこの光星学院高校の先生、仲間との絆を大切にしてほしい。」恩師との出



会い、努力の意味、仲間との友情、卒業後のフランスでの修行、氏の叫びにも似た話に誰もが息をのんで耳を傾ける。

この講演を聴いた約800名の生徒の中から、いずれ松坂氏のような人材が出てくることを心から願う。そして同じこの体育館で先輩達に自分の人生を語っていただきたい。なぜならば、そのことがきっと「光星学院の絆」を太く大きくしてくれるに違いないから。

今年は熱い夏でした。7月5日に八戸市公会堂で行われた「吹奏楽コンクール」に今年も出場しました。今年の自由曲はスペインの情熱的な雰囲気をおぼせる「ルイス＝アロンソの結婚」より間奏曲という曲を演奏しました。昨年度はとても悔しい思いをしましたが、今年度はまず「金賞」を目標に日々練習に取り組みました。八戸地区は他の地区に比べると開催が早く練習はまだまだ不十分でしたが、生徒達の頑張りが音になり、今後につながる演奏をすることができました。結果は地区代表「金賞」で県大会に出場する権利を戴くことができました。

地区大会が終わって間もなく、7月24日に青森市民文化会館で行われた県大会が行われました。演奏は、県大会の初日の1番目の演奏、何も響いていない静かなホールに、光星学院高校の音が響きわ

青森県大会 金賞 吹奏楽コンクール出場

たりました。生徒達のサウンドもこの期間で大きく成長しました。本番での細かいミスは幾つかありましたが、精一杯ひとりひとり演奏し、東北大会の切符は惜しくも逃しましたが、「金賞」を戴くことができました。

応援して下さいみなさまや体育館など練習場所を貸して下さい部活動のみなさま、本当にありがとうございます。

今後も更に上を目指して頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

今年度も2月頃に「第4回定期演奏会」を開催する予定です。ご案内いたしますので、是非、光星学院高校の演奏を聴きにいらしてください。



野辺地西高校

中学生のみなさん、ようこそ

一日体験入学でアピール

先頃、本校の一日体験入学が2回に渡って行われ、盛況の中に終了した。

第1回は7月4日(土)に行われ、部活動体験を除く9テーマ、30校の中学校の参加であった。第2回の体験入学は8月1日(土)に行われ、部活動体験を含む14テーマで、22校の中学校の参加であった。

本校の体験入学は「ものづくり体験」を中心とする系列単位の学習体験、硬式野球やサッカーなどの部活動体験が主な特色といえる。人間福祉系、教養進学系、工業技術系、オートメカニック系のそれ

ぞれの授業内容・実習内容、そして部活動の練習体験が理解しやすい形となっているので、取り組みやすい内容となっている。

体験入学の中心である体験学習は午前中に50分2テーマで行なわれ、参加した中学生は希望するテーマにそれぞれ分かれて体験学習に励むことになる。

各系列の体験学習のテーマの主なものを示すと「沐浴体験・人命救助法」、「縄文アクセサリ」、「石けんづくり」、「君もタイヤマン」、「四輪バギーの調整」、「テ

スターの使い方」、「コンクリート調査」、「熱気球」などである。

今回参加した中学生の感想は、「生徒の皆さんや先生方がとても明るく、親切でとても雰囲気の良い学校だと思った」、「先輩方が色々教えてくれて楽しかった」、「体験学習はとても楽しくためになり良い体験になりました」など好評であった。

担当者は「今後も更に体験学習の内容を充実させて、中学生の皆さんに野辺地西高校の魅力を理解していただけるようアピールしていきたい」と語っている。

空手道部女子、輝く八連覇～全国への道、東北から全国へ～



本校の空手道部女子は、平成21年度県高校総体において女子団体組手で見事優勝し8連覇を飾った。

8連覇を達成するまでの道のりをたどってみると平坦な道のりではなかった。

初戦の黒石商高戦は5-0で勝ち上がったが、準決勝の青森南高戦、決勝の青森北高戦をそれぞれ3-2の僅差で勝ち、県団体組手の連勝記録を8に伸ばした。

個人戦では、主将の新潟清夏選手(青森市立西中学校出身)が女子個人組手・個人形の優勝を成し遂げ、2種目制覇を達成した。また個人の組手・形の1・2位(全国大会出場権の獲得)の上位独占も果たし、完全制覇を成し遂げた。

その後、東北大会で団体組手2位の成績を収め、全国大会に臨んだ。

インターハイでは新聞等で既報の通り、1回戦で高知の明德義塾高を4-1と

破ったが、2回戦で優勝候補筆頭の東大阪大敬愛高に1-4で破れてしまった。内容的には僅差の勝負で惜しい敗戦となった。

選手からは悔しさの募るコメントが多く聞かれたが、3年生は後輩に「次を頼むよ(連覇を続けて)！」のエールを送っていた。顧問(監督)の迫祐子教諭は「ケガや故障に耐え、よく頑張ったと思う。試合内容には悔いが残るが、この結果をしっかりを受け止め、反省し、(後輩達へ)次のステップへつなげてくれることを期待したい。」と語っている。

なお、「全国大会10年連続出場」を達成したということで表彰を受けた。県や東北で勝ち続けることと全国制覇を目標に、これからも野辺地西高校空手道部女子の挑戦は続く。

全日本ジュニアレスリング選手権2位!

本校のレスリング部員の葛西光之輔(青森市立横内中学校出身)は、4月25、26日に神奈川県横浜市で行われた全日本ジュニアレスリング選手権のカデットの部フリースタイル・63kg級において見事2位に入賞した。

各県からの代表が集って47選手が参加した大会で決勝進出を果たしたが、惜しくも優勝には達しなかった。本人は「今回の敗戦を反省して、県の高校総体優勝

とインターハイでの上位入賞を目指す」と語っている。

まだ2年生と言うこともあって、ジュニアの星として「高校総体で活躍!」と周囲の期待を一身に集めている。この後の活躍に期待したい。



初東北大会出場！

躍動する野西サッカー



サッカー部は5月下旬・6月上旬に行われた青森県の高校総体で3位になり、初の東北大会の出場を決めた。

初戦・2回戦・3回戦と順調に駆け上がり、準々決勝まで進み、三本木農戦を1-0で破り、準決勝に進出した。準決勝の八戸西戦では0-0のまま延長に入ると思われた後半ロスタイムに得点を奪われ、0対1で決勝進出できなかった。七戸高校と

の3位決定戦では1対0で勝利し、3位になり東北大会の出場権を得た。

2週間後に山形で行われた東北大会では、山形県第1代表の羽黒高校と対戦し、3-4で惜しくも延長戦の末、敗れた。ゲームとしては一進一退で、互いに点の取り合いとなる白熱した戦いを繰り広げた。

東北大会の出場を振り返って、主将の藤井颯太君（八戸市立中沢中学校出身）は「東北大会はとても自信になりました。これからの試合も頂点を目指してがんばります」と次への意欲を見せていた。

また、監督の三上教諭は「決勝まで進出したかった。高校総体の勢いを選手権まで保って成果を上げたい今後、東北プリンスリーグ昇格や選手権での決勝進出を目指して鍛えます。」と語った。

光星学院親睦チャリティゴルフコンペ開催

第19回光星学院親睦チャリティゴルフコンペを8月5日八戸カントリークラブにおいて開催した。

参加者は、光星学院の各教育施設が日頃お世話になっている県内外の企業や外郭団体（父母の会、後援会、同窓会）の方々を中心に157名と近年に無い大勢の参加があり、天候にも恵まれゴルフコンペは無事終了した。

ゴルフコンペ終了後八戸パークホテル

において表彰式・懇親会を行ない、中村覺理事長より是川縄文の里整備事業協賛会の橋本昭一会長へ今年度のチャリティゴルフコンペの収益金が寄贈された。続いて、加藤政弘様（みちのく銀行）に乾杯をお願いし、表彰式・懇親会は盛会のうちに終了した。

なお、今年度のコンペ優勝者は山田信雄様（有限会社ぐっど）でした。



Column

ハイ、こちら総研です。

鯖？ サバ？ サバピア〜ン！！

カタカナの“サバ”はフランス語である。小子はフランス語が得てではないが、「やあ、どう？」とか「いかが？」という感じでコマンタレーよりは軽い雰囲気。応えて“サバピア〜ン”は「いいわよ」とか「まあね」といったところか。

八戸の鯖はサバピア〜ンである。イカとともに八戸港の伝統的基礎漁獲アイテムである。しかも鯖は青味魚の典型で体に良い蛋白源として広く認められているが、特に八戸の鯖には粗脂肪が多く含まれている。ということはDHAやEPAの含有率が高いということである。メ鯖が名物であるのも当然である。これは八戸前沖北緯40度30分が鯖の北限漁

場で、冷たい海温が粗脂肪形成を助けている。まさに自然の恵み“サバピア〜ン”である。

量的にも全国でも有数のメサバ産地であることは当然の帰結である。近年、「八戸」の地名と、メサバと地域ブランドとを結び付けようという動きが強くなってきた。ブランド化するということは、そのブランドを持つメサバは常に同じ味・同じ品質を持っていること、即ち信頼性が担保されていることである。これには業界挙げて品質基準と管理基準とを統一し遵守することである。商工会議所を中心に「八戸前沖さば」のブランド化が実現に向けてブランド形成作業が進められている。八戸大学准教授で総研のメンバーでもあるI先生が中核メンバーの一

人として熱心に参加し、自ら一流デパート等に売り込んでいる。学生たちも地元企業と連携しながら、八戸前沖さばだしラーメンやサバップルといった大学発商品の開発を実践している。

野菜とともに魚介類を多く摂取すると、認知機能が低下しにくいとの研究発表もあります。またまた“サバピア〜ン”

学生はフィールドで別のことをさせると思わぬ能力を発揮することが多い。総研がキャンパスと社会の結節点の場を用意するのも使命の一つだろう。

（総合研究所副所長 坂下 允章）

八戸短期大学附属幼稚園

ようこそ「星の子キッズクラブ」へ

本園では、教育目標「あたたかく、やさしい幼稚園」の実践活動として「星の子キッズクラブ」（未就園児教室）を開室し、大勢の皆さんにお出でいただいています。

対象は満2歳から入園前までの子どもたちで、保護者と一緒に来園して活動を楽しんでいます。開催は原則月3回で、午前10時～11時30分。（但し、月末土曜日は自由参加）



一学期の主な活動内容は以下のとおりでした。

- ☆こんにちは、おともだち みーんな集まれ「歌って踊って楽しもう」
- ☆新聞紙で遊ぼう
- ☆歌って聴いてリズム表現
- ☆小麦粉粘土・シャボン玉・色水で遊ぼう
- ☆親子でこいのぼりを作ろう
- ☆親子でダンス・体操を楽しもう

☆親子でリズム遊びを楽しもう

5月に行った「親子でダンス・体操を楽しもう」は、八戸短期大学幼児保育学科 橋本妙子先生を講師に迎え、ダンスや体操を親子で大いに楽しみました。親子で一緒に体を動かし、たくさん汗をかけた楽しいひとときでした。（写真）

二学期最初の「星の子キッズクラブ」は、「親子園外保育」を予定しています。9月2日（水）八戸公園へバスで出かけます。

新しいお友達との関わりの中で、子どもたちが新たな世界へ小さな一歩を踏み出していく大切な時期、これからも保護者の方々と一緒に成長を見守っていききたいと思います。



聖アンナ幼稚園



お泊り会が近づくと、子どもは、期待に胸を膨らませる姿が見えます。時間をかけて、子ども達とグループを決めたり、どんな風にして過ごすかなど話し合います。

当日は、自分達でカレーライスを手作ります。むく、切る、摩り下ろすなど材料の感触を楽しみつつ、皆と協力し割当て分を切っています。たまねぎが目にしみても、涙目をこすり



一人でできるかな？



ながら最後までやり遂げる子もいました。

その後、お当番活動。料理の片付け係は使った道具を丁寧に洗ったり拭いたり。夕食準備係は、掃いて拭いてナプキンなど揃え、食卓を整えます。ふわふわの感触を味わいながら、二人で運ぶ布団敷き係。

道具立てを準備することで日常的な活動が生かされ実に感心するほどよく出来ます。盛沢山な仕事の中には、好きな作業ばかりではなく不得手なものもあるでしょう。でも、誰もその人に代わることは出来ません。みていると子どもが自ら主体的に関わろうという姿勢が見え、日頃から培っている内面的な成長が子どもを助け支えているように感じます。

夕食をセルフサービスで盛り付け、おいしそうに頬張る子供達。花火会では喜びの歓声。肝試しでは、ビニールをかぶった教師のお化け、わずかの物音だけで足がビタリ。怖さのあまり園庭に逃げていった子、泣きじゃくる子など、それは

お泊り保育

ミステリーな時間でした。

翌日も身の回りのことを自分で整え降園。“一人で泊まれた”という自信に溢れています。流れを自分の中で理解して動くことや、子ども同士の人間関係、我慢をすることなど、少しずつ大人になりかけていく子どもにとって大切な学びの場であるのだと思いました。

教師にとっても、どうしたら子どもたちが自分達の力で出来るのか準備する勉強の場でもあると感じています。それらは、日頃の保育で培われた基本的生活習慣の総合的な実践の場として一人一人が心から参加することで実るものです。それゆえに、毎年お泊り会の思い出を語る子が多いのも頷げます。



びわの幼稚園

びわの幼稚園では、6月3日(木)幼年消防クラブ認定式を野辺地消防署の署員3名をお迎えし、半纏姿の園児が緊張するなか幼稚園ホールで実施した。認定式は、町内に一つでも多くの防火の輪を広げることが目的で、出席した園児一同「火遊びはしません、お父さん寝タバコやめましょう、お母さんガスの元栓締めましょう」と誓いの言葉を唱和した。10月には町内での防火パレードが予定されている。

また、7月5日(日)には、ご家族の皆様約200名をお迎えし、たなばた運動会を幼稚園園庭で開催した。ご家族の方々は、前日から観戦場所を確保し、自分の子供に、そして園児に大きな声で声援を送っていました。運動会は園児入場の開会式から始まり、午前中は15種目、午後は3種目、今年度は昨年度の反省を踏まえ、全競技についてその競技方法を競技開始前に説明披露し実施した。全競技終了、後片付け終了、とともに突然の豪雨、豪

イベントいっぱい！

雨、豪雨…関係者一同、天気恵まれたことに感謝したたなばた運動会であった。

7月24日(金)、一学期の終園日に年長児のお泊まり保育をびわの幼稚園舎で実施した。

参加した園児13名は、午後4時までに布団とともに園ホールへ集合。その後、先生の指導のもと、夕食に添えるデザート作り、今回は、白玉入りフルーツポンチ。夕食は園児からの希望でヤキソバ、みんなで作った、みんなで食べた楽しい時間でした。その後は、最も期待をしていた花火大会、園児がそれぞれの浴衣に衣替えをしておいた記念写真。4班に分かれて楽しんだあと、期待の打ち上げ花火、とても満足した花火大会で、

宿泊予定でなかった一人の園児もついつい、みんなと一緒に眠りにつき、翌朝、お迎えにおいでになられたお母さん、「大丈夫だった？」と一言、無事お泊り保育が終了しました。



第二しなのめ幼稚園

親と子の育ちの場 ぽけっと広場

子ども同士の遊びや親たちの交流のための「時間・空間・仲間」の三つの「間」の大切さが叫ばれています。

当園では、子どもと保護者と教員、地域の人たちとの出会い、触れあい、語り合いの場となることを基本に据え、一人ひとりの子どもの自立を促していく子育て支援していきたいと「ぽけっと広場」を開設しています。そこに集う幼児達には、様々な遊びの世界を通して、自分を表現することの楽しさや、親子教師を含めて互いの和をつくり育ちあいたいとの願いもあります。

今日、家庭生活においては人との触れあいや戸外での遊びが少なくなってきたといわれています。そこでこのような触れあいを保障するために私たちは次のような環境を整えています。

まず第一に自然に触れるための環境を挙げたいと思います。身近な小さな自然

に目を向ける気持ちを育む配慮として、園庭の小さな草花を摘み髪飾りにしたり、季節の野菜を植えその生長を楽しんだり、風の音の心地よさ木々の実を拾ったり、季節が巡ることを感じることは家庭生活では、味わえない感覚です。

次に、様々なイメージを楽しむ環境づくりに配慮しています。砂と関わりお団子を作りそこからレストランごっこに発展出来るよう容器やテーブルを準備しておいたり、何色かの色を混ぜ合わせて変化を楽しむ色水作り、小麦粉粘土をちぎって丸めて等の体験から自分なりの表現を楽しむこと等ができます。

8月に行ったポケット広場では、親子でお店屋さんの品物作りを楽しみました。様々な材質の紙や、形の違う箱などを幼児の目線や動線上において作りたい気持ちを動かすことも大事なことです。活動の最後は、作品自慢タイムです。自分の

作ったものをみんなに見せほめられる体験から、自分の心の中にやり遂げた達成感と次への意欲が育つようにと思っの時間です。

本園一階、2階のテラスは、晴雨に関わらず外気を感じながら遊びを展開できる場です。保育室と園庭の中間として、ケンパコーナー、縄あそび、植物観賞、水遊び、2階からの眺めを楽しむやまびこごっこあそびの多様化のための空間として大切に提供しています。もちろん平常保育時には、園児にとっての食事ルームになる楽しみの場でもあります。

幼稚園を地域に開放し、子育て支援センターとして親と子の健やかな育ちを支えていきたいと考えながらのポケット広場です。

私たちは、園をたづねてくださる親子の皆さんが安心して過ごせる空間・時間・仲間作りに配慮していくと同時に、幼児を真ん中に保護者の皆さんと教師が心をバリアフリーにしながら、幼児にとってのより良い保育の質と環境を用意していくつもりです。



寄付受理のご報告

光星学院イノベーションプログラム(基金)

平成19年度以降累計額 **87,119,543** 円

平成20年度 **35,504,600** 円 (寄付協力者376名)

(平成19年5月～平成20年7月末)

次の方々よりご寄付を賜りました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

(順不同)

マネックスグループ(株) 様	(株) サ ト ー 防 災 様	(有) 一 兆 工 機 様	中 当 建 設 (株) 様
(財)日本開発構想研究所 様	(株) さ ん ぼ う 様	(有) 空 寛 様	夜 酔 様
(有)有馬動熱工業所 様	(株) 溝 江 建 設 様	(有) 泰 雲 堂 様	高 橋 う ど ん 様
三 八 五 観 光 (株) 様	(株) 島 津 理 化 様	(有)すぎもと保育社 様	京 栄 荘 古 川 勝 雄 様
マ ル ヨ 水 産 (株) 様	(株) 真 照 堂 様	NEC フィールディング(株)青森 様	八 戸 大 学 父 母 の 会 様
三八五オートスクール 様	(株) セ ノ ン 様	青森県自動車整備振興会八戸支部 様	八 戸 大 学 同 窓 会 様
(有)淡路会計事務所 様	(株)ティーエスピー盛岡支店 様	青 森 放 送 (株) 様	八 戸 大 学 後 援 会 様
(株) 青 森 テ レ ビ 様	(株) 東 栄 様	タニコー(株)八戸営業所 様	八 戸 短 期 大 学 父 母 の 会 様
(株)アスカ八戸営業所 様	(株) 八 戸 通 信 機 様	東日本電信電話(株)八戸支店 様	八 戸 短 期 大 学 後 援 会 様
(株)有馬道熱工業 様	八 戸 液 化 ガ ス (株) 様	富士火災海上(株)八戸支店 様	光星学院高等学校3学年PTA 様
(株)岩沢測量コンサル 様	(株) 金 入 様	みちのくリース(株)八戸 様	光星高校専攻科父母の会 様
(株)エスタディオホールディングス 様	ス ポ ー ツ 平 井 様	(有) カ メ ラ の 和 弘 様	光星高校専攻科同窓会 様
(株) オ ダ ブ リ ン ト 様	ア ク シ ズ ヤ ナ ギ マ チ 様	浦久保田衣料店 代表取締役 久保田 茂 様	光星高校専攻科後援会 様
(株) 学 園 サ ー ビ ス 様	青森総合警備保障(株) 様	(有) 倉 成 会 計 事 務 所 様	光星学院野辺地西高等学校同窓会 様
(株) グ ラ ン フ ォ ー ト 様	(株) ビ ジ ネ ス サ ー ビ ス 様	吉田ガラス店 吉田 秀男 様	光星学院野辺地西高等学校PTA 様
(株)小山商会盛岡営業所 様	(株) 三 久 様	吉 田 産 業 協 同 組 合 様	光星学院野辺地西高等学校後援会 様
(株) サ サ 商 会 様	(宗)常現寺 住職 高山 元延 様	新光印刷(株) 代表取締役 上野 良範 様	

富 田 真 様	葛 西 秀 昭 様	西 村 貫 一 様	吉 田 尊 徳 様	日 當 光 男 様
浦 田 隆 様	加 藤 雄 彦 様	沼 田 徹 様	飼 牛 正 親 様	野 村 美 佐 子 様
守 田 晴 夫 様	川 村 光 良 様	野 月 順 一 様	金 沢 成 奉 様	松 本 寿 文 様
守 田 日 出 男 様	工 藤 貴 美 子 様	橋 本 功 様	村 上 省 二 様	村 本 卓 様
工 藤 美 登 様	工 藤 修 平 様	林 雅 美 様	蛇 口 浩 敬 様	金 綱 基 志 様
高 坂 登 志 雄 様	工 藤 伸 太 郎 様	元 山 正 一 様	鈴 木 宏 一 様	奈 良 卓 様
高 橋 千 多 栄 様	小 嶋 ま き 様	米 畑 好 博 様	出 口 博 章 様	木 鎌 耕 一 郎 様
船 越 珠 實 様	境 崇 治 様	鶴 田 照 一 様	服 部 昭 様	石 原 慎 士 様
馬 渡 麟 太 郎 様	佐 藤 隆 英 様	中 村 覺 様	戸 村 春 樹 様	長 谷 川 美 千 留 様
家 口 和 夫 様	佐 藤 忠 治 様	法 官 新 一 様	三 浦 賢 治 様	鈴 木 郁 生 様
石 亀 健 様	新 沼 館 邦 雄 様	高 坂 郁 子 様	小 澤 昭 夫 様	猪 股 清 美 様
一 戸 留 美 子 様	新 町 勝 弘 様	小 山 内 泉 様	内 海 隆 様	熊 谷 靖 様
上 野 栄 子 様	谷 坂 昭 博 様	大 関 武 仁 様	大 沢 泉 様	川 村 広 志 様
上 村 隆 様	た む ら な つ こ 様	黒 沢 直 人 様	丹 羽 浩 正 様	佐 々 木 良 幸 様
小 笠 原 英 男 様	東 北 電 話 (株) 八 戸 様	納 谷 司 様	田 中 哲 様	小 松 良 重 様
岡 田 悦 哉 様	長 澤 七 郎 様	磯 邊 寿 子 様	矢 野 峰 生 様	戸 館 勉 様
加 賀 谷 典 子 様	長 澤 晋 平 様	中 村 恵 子 様	前 山 総 一 郎 様	小 林 嗣 子 様

学院キャンパスだより 19



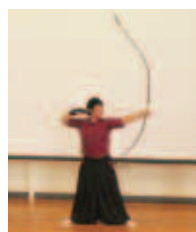
八戸大学・八戸短期大学

OPEN CAMPUS 2009



今年度の八戸大学・八戸短期大学オープンキャンパスが開催されました（第1回目7/25、第2回目8/22）。

テーマは「START～ココカラハジメヨウ～」です。今回は八戸短期大学の看護学科（平成21年4月開設）が新たに加わり、八戸大学、八戸短期大学を目指す大勢の来場者で賑わいました。7/25に開催された特別講座では、「大学で何を学ぶ～社会人に必要な力～」と題し株式会社ディスコ東北支社の菅野支社長より膨大なデータ分析による貴重なお話を聞くことができました。社会人になるまでに身につけておくことや、そのために“学ぶ”という考え方など進路選択に欠かせない内容でした。その他にも体験授業や施設見学、スタンプラリーなど高校生の皆さんは楽しく充実した一日を過ごしていたようです。



今後の開催日

9月12日（土）

10月17日（土）

10月31日（土）

看護学科開設記念講演会

八戸短期大学看護学科が今年4月に設置されたことに伴い、開設記念講演会が8月22日（土）に大学会館520教室で開催されました。

講師には、マスコミを中心に多方面で活躍されている医学ジャーナリストの植田美津恵氏を招き、「健康力：戦国武将たちに学ぶ」をテーマとして、元禄時代以前の戦国武将たちの健康にまつわる興味深い話を1時間30分にわたり語っていただきました。

この講演会は、今年度の第2回目の「八戸大学・八戸短期大学オープンキャンパス」当日に行われ、看護学科を希望する高校生とその保護者、一般市民、看護学科1回生、教職員等の合わせて約100人が聴講しました。



第14号表紙

光星学院高等学校 チアリーディング部

7月12日宮城県岩沼市で開催された、JAPAN CUP 2009チアリーディング日本選手権東北地区予選会において光星学院高等学校チアリーディング部3連覇し、全国大会の出場権を獲得した。



学院キャンパスだより第14号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>